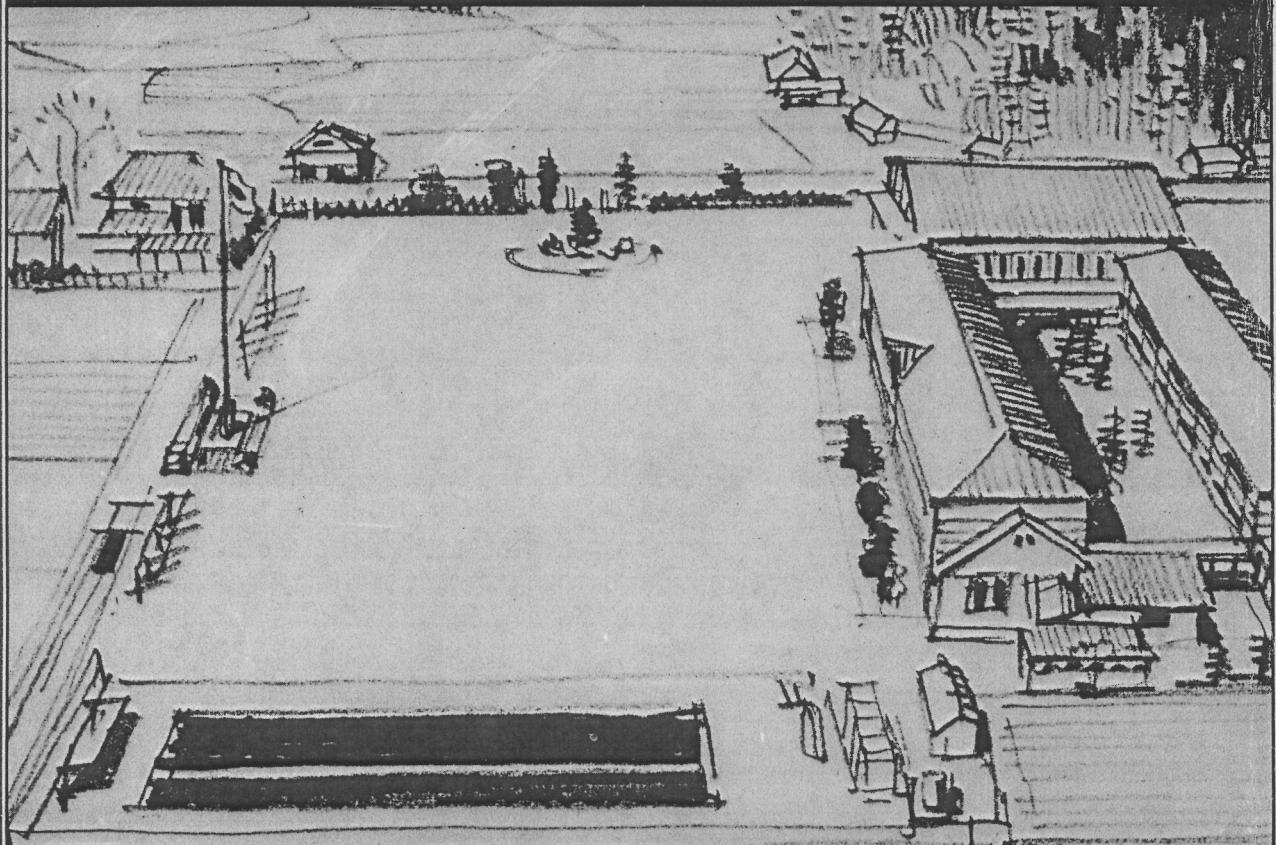




創立百年記念



昭和47年10月13日

兵庫県多紀郡丹南町立

城 南 小 学 校

もくじ

表紙 記念碑設計者
清水和弥先生 画

新旧の校旗並びに校歌額 1
新旧の城南小学校全景 2

挨拶

丹南町長

河南貞夫 3

多紀郡 教育長

小林政雄 4

百年祭実行委員長 大西義夫

..... 5

PTA会長

酒井隆一 6

学校長

小林俊弘 7

学校沿革史

..... 8

歴代校長写真

..... 11

恩師の思い出

..... 13

同窓会員の声

..... 19

児童作文

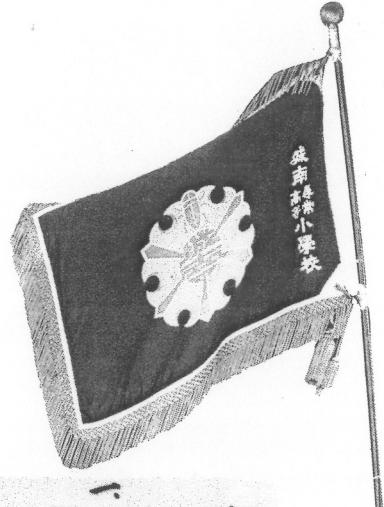
..... 27

百年祭実行委員組織表

..... 35

記念事業

..... 36



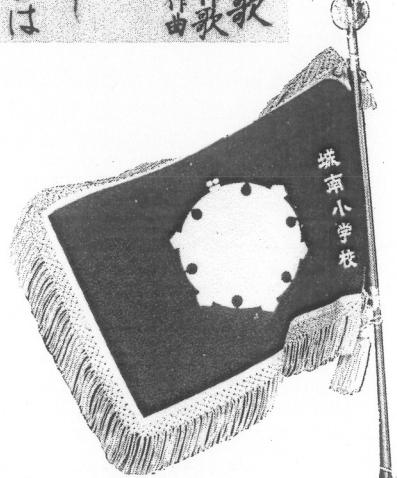
城南尋常高等小学校々歌

齊藤子郎作詞
竹澤良次郎作曲

一 心のよしと定めたる
光の道にかけはなし
我が學びやのあけぼのは
娘の瑞枝に銀の風
城南わがれわらわがし

二 育つ生命の冠に
皇國の精華をかざりゆく
我が學びやの友皆は
駒の手綱に金の鞭
城南わがれわらうす

三 高照る至誠仰ぎ、
力と愛に眩みあふ
我が學びやのゆきすゑは
天つ飛龍に虹の橋
城南わがれわらうたのし

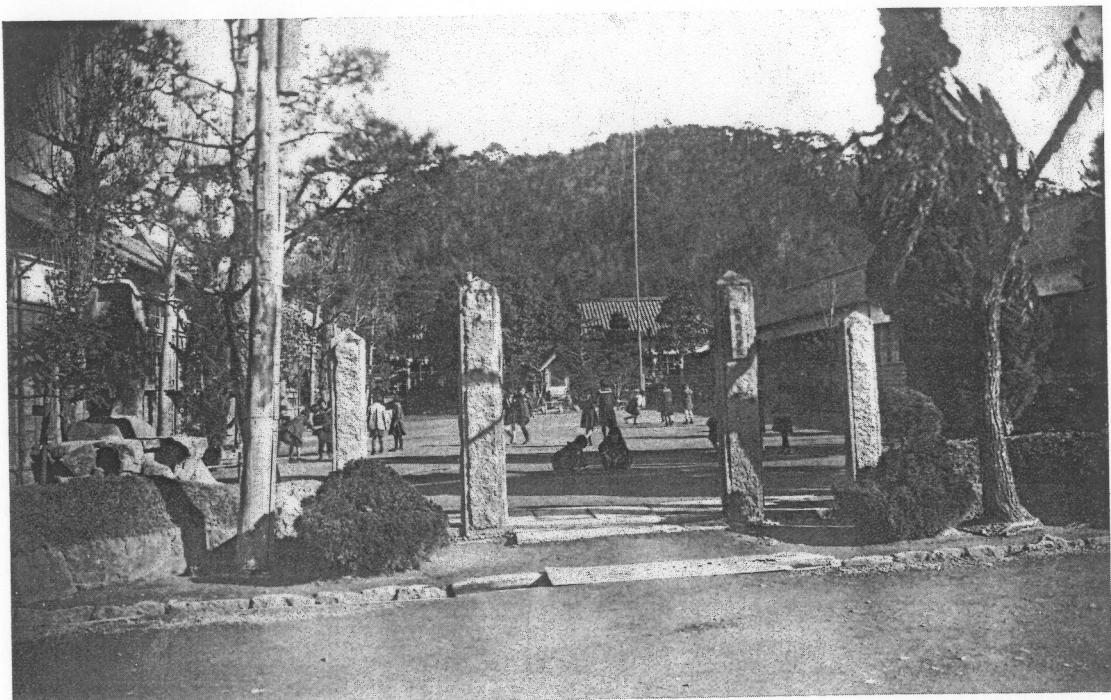


城南小学校々歌

作詩 城南学校教員
校閥 岸本伊知次
作曲 古林玄之

一 朝日に輝く四季山は
樹々のいろどり美しく
わが学び舎に照り映え
明るい希望の花に満つ
育つ若芽匂やかに
樂い城南小学校

二 学び舎近きせらぎは
小松川の清流れ
はるか海原目や一つ、
はすゞ進みてたゆみを
文化の泉ゆくところ
明るい城南小学校

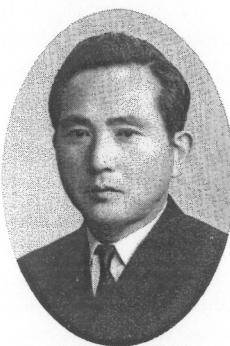


想い出の城南国民学校



百周年を迎えた城南小学校

百周年を祝して



丹南町長 河 南 貞夫

四季山の麓、この美しい自然に囲まれた城南小学校を仰ぎ見るとき、その新しい息吹の中にも教育城南として古い伝統に培われてきた威厳をひしひしと感じるのであります。

この立派な伝統も一世紀になんなんとする永い歴史と共に、ここに城南小学校創立百周年を迎えたことは、誠に意義深いものがあり、ご同慶にたえない次第であります。

城南校区の方々は夙に教育の重要性を深く認識され非常な熱意と努力をもつて教育施設の実現に力を注がれ、明治六年他校にさきがけ小学校を開校された先人の業績と皆さんのご労苦に対し尊敬と感謝を捧げるものであります。

その後、幾多の社会情勢の変化や運命の移り変わりがありながらも皆さんの愛校心と教育に対する深い理解によりここに隆々たる校運を実現され今日までに輩出された卒業生も数千名を数え、国家社会のため尽くされた方々や、今尚立派な社会人としてあらゆる分野に活躍されており本校の名声を高められていることは、ひとえに歴代校長先生はじめ、諸先生方々の熱情と

校区皆さんのが教育に対する限りない愛情と理解の賜と存じます。

「ローマは一日にしてならず」のたとえのとおり、城南小学校のこの清く正しい校風と伝統も百年にわたる先輩諸氏のたゆまざるご努力とご協力によつて、うち建てられたのであり、この輝かしい伝統は今尚在校生諸君にも受継がれ、又永遠に輝きつづけるものと信じます。

小学校における教育はその後における人間形成の営みを通じ極めて大きな役割を果すものであり、わが郷土の未来を託す児童が明るく健やかに成長し社会のよき形成者となるよう一日もゆるがせにできないことがらであります。どうか今後とも全校一致のご努力と校区、PTAの皆さんのが協力により本校の益々隆盛なる前途が開拓され、この百周年をして真に光彩あらしめられるよう祈念し、お祝いのことばといたします。

創立百周年を祝して

多紀郡教育事務組合

教育長 小林政雄



明治五年学制が発布されてから百年の歴史を画する記念すべき年に当り、創立百周年を迎えた城南小学校の輝かしい伝統と歴史に対し心からなる敬祝の意をささげます。

学校当局はもとより、同窓の各位をはじめ、地区のすべての方々がこの記念すべき歓びにめぐり合わせましたことは、これ全く百年前の先人がいち早く教育の重要性に着目せられ英断をもつて新しい扉を開かれましたご功績の賜ではあります、更にその後今までの長い間の多くの方々のたゆまぬご努力によるものであります、いくら讃えても讃え過ぎではなかろうと存じます。

由来城南村は教育村としての名声高く、教育に対する深い関心と強い熱意が注がれ、教育の水準を高めつゝ美しい伝統のもと顕著な実績を上げながら今日を迎えたのであり、誠に敬服の他なく存じて居ります。更にこの記念すべき年を

契機として将来に向つて力強く伸びようとなされている進歩的な姿勢をきくにつけても誠に尊くご同慶にたえないところであります。価値の多元化、情報の多様化する現代社会の中には、あつて幾多の難問にも当面されることとは思いますが、皆様方のご理解による地域ぐるみのご協力によって、進みゆく社会に対処できる立派な次代の人間育成のために一そうのご精進をお願い申し上げごあいさつといたします。

城南小学校創立百年祭



実行委員会長

大 西 義 夫

今年は母校城南小学校が、明治六年に創立されましてから百年目に当りますので、この再び会い難い記念の年を一層深く意義づけるために、創立記念日の十月十三日をトし、記念式、祝賀運動会、生花盆栽其他諸々の展示会を開催いたしますと共に、今後育つて行きます児童生徒の教育にも役立てて貰ふために、国旗、校章旗の掲揚柱を建設し、その台座に後世に伝えるタイムカプセルを埋蔵、更に教育の近代化能率化を図る上から、新しい教育機器を購入すると共に、学校と地域社会との交流を密にする、談話室の設備等を計画いたし、地区内現住の方々や、同窓生の皆々様に、御協力を願いましたところ、部落惣代各位の快き御賛同を給りまして、それより寄附を募つて頂くと共に、各地へ出て御活動の同窓生の各位からも、多額の特志寄附金や、校旗其他の貴重な記念品等を、続々とお贈り頂き、母校を愛される有難き御芳情に対し、発起人は申すに及ばず、

実行委員一同、さすが教育村城南と称えられた、当地御出身の方々なればこそと、感銘を深くいたし感涙に咽んでおります。百年と言えば一世紀、この間の日本の国の変貌と進展は、世界の驚異であり、殊に第二次大戦後の発展と成長こそ各國の目を瞠せるものがあります。然しながらこの物質科学文明に、ついて行けないのが心の問題でございまして、滔々として世相は軽佻に流れ、感謝報恩の美德は年と共に失なわれつゝあることが嘆かれておりましたが、このたび関係各位の御厚情に接し、城南魂尚健やかなりと強く見直すことができました。喜びに堪えて衷心感謝の誠意を捧げる次第であります。

この百年間城南村から今日の丹南町に至るまでの、歴代町村長さんは十三人、又校長さんは十九人、何れも母校を、充実、完備、発展させて頂きました。大功労者でございまして、改めて「駕籠に乗る人担ぐ人その又わらじを作る人」という諺があります。かごに乗られた村長様や、校長様、又これをかつがれた方々の御功績は言う迄もありませんが、この又わらじを作つた一般城南地区の先輩、並びに今日の皆様の御熱意と御努力に對しましても、満腔の御札を申し上げたい感謝の心で一杯でござります。

今回の盛大にして意義深き百年祭を契機といたしまして、今後の子供の心に、教育に、何物かが滲透し、伝えることができれば、この上なき幸甚、又これを心から念願して止みません。終りに百年祭実行委員の皆様方や、学校の先生方の、御努力に対し厚く御札を申し上げ、合せて今後とも変わらぬ御支援を、お願い致しまして御挨拶と致します。



挨 拶

PTA会長

酒 井 隆 一

仲秋のよい時候と相成り城南小学校の同窓生の皆々様には、益々御健勝にて内外各地に於いて御活躍の事とお慶び申し上げます。

さて本年十月十二日には、城南小学校開校百年を迎える大変目出度い時に当り私が皆様方に御挨拶申し上げる機会を得ました事は私に取つて誠に光栄に存じ感謝感激至しているもので御座居ます。この意義深い日を皆様方と共にお慶び申し上げます。創立記念日を迎えるに当り本年一月以来同窓生の方々を始め町会議員さん各部落総代さん又我々PTA役員により百年祭実行委員会を作り記念事業につき種々御協議していただきました結

果、記念施設出版事業、文化事業、体育事業、以上の記念事業をして頂く事に成り各部会に於いて、度々会を御持ちいただき具体的な事業計画を作り十月十三日の創立記念日にはすべての事業が完了至す事となり今日立派な記念事業が出来ました事は大変ありがたい事で御座居ます。各地の同窓の方々を初め城南地区の皆々様方の多額の御厚志を給り大変立派な記念事業が出来ました事を厚くお礼申し上げます。記念施設として国旗掲揚柱に台座を作りタイムカプセルを埋蔵致しています。出版事業として記念誌発刊、文化事業として生花展、体育事業として小学校運動会並びに城南地区町民運動会が盛大に行なわれる運びとなりました。又教育施設として個人教育が出来るシンクロファックスを買って頂き現代個人授業をして効果を上げつつあります。会議室も立派なテーブル、イスなどの設備もして頂きました。この会議室は一般の方々にも御利用していただき、地域の皆様方と学校との結び付きを深めると共に一層の緊密さを増す事がねらいです。この記念施設、事業に御理解御協力給ります方々に心から厚く御札申し上げます。

我々PTA会員はPTA活動を通じて家庭教育の充実を計りより良い地域社会を作る事に努力し皆様方の御期待に答えたく存じます。今後共よろしく御指導をお願い致します。



挨 捭

学 校 長

小 林 俊 弘

は今も変ることなく、このたびの百年記念事業に際し、予想以上の淨財をご寄附賜わった事にも、はつきりと表われております。

城南小学校創立百年を、同窓生、地域の皆さんと共に、心からお祝い申し上げます。

明治六年、篠山幹校の野中支校として開校してから一世紀、学制改革や統廃合によつてその様相は時代と共に変つて参りましたが、終始、地域の人々の熱意と温情に支えられ、先輩各位のたゆみない精進によつて、郡内屈指の名門校としての校風が確立され、その誇りと伝統の中で、本庄大将に象徴される如く幾多有為の人材を育成して参りました。

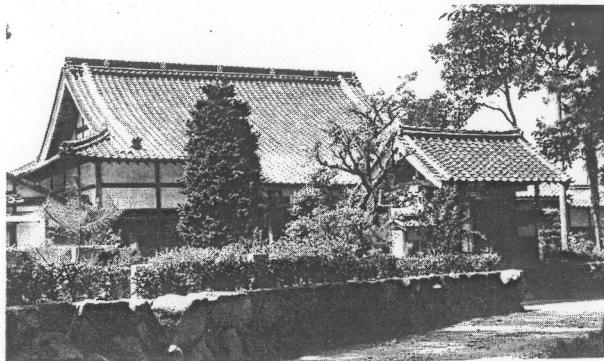
さて今日は、新しい生活や生産の様式が急速に普及しつつあり、私たちの生活を取巻く物理的、社会的な環境は、益々変貌が激しくなつてまいりました。このような環境の激しい変化と相まつて、人々の行動様式や、物の見方、考え方も大きく変わろうとしています。

こうした中で、教育は第三の改革をせまられています。この百年を一つの節として、過去を振り返り将来を展望して、教育改革の課題に応えることこそ、誠に意義深いものがあると信じます。幸い、教育優先を町是とする当局の温かいご配慮と、学校にとつて何より力強い地域のご支援は、城南小学校の前途を益々明るいものにしています。

沿革誌を辿れば、教育がいかに政治や経済に左右され、強い影響を受けるものであるかを痛感せずにいられません。

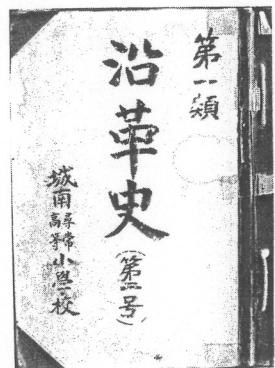
しかし、その中で人間形成という教育固有のねらいが堅持され、その目的が大きく実現されてきた背景には、地域の教育に対する深い理解と、学校への温かく力強いご支援があつたからに外ならないことも充分うかがえます。これ

創立百年の記念すべき日に当り、平素よりお寄せ下さつてゐるご芳志に感謝申し上げると共に、さらに後に続く子等の幸せを願つて更に温かいご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げて、挨拶といたします。



現在の野中西禪寺

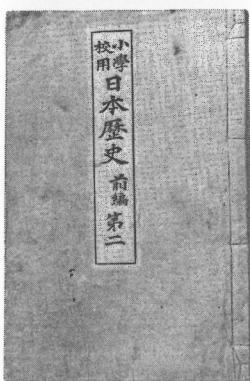
- 明5・ 小学校令發布
- 明6・4・20 篠山幹校創始
- 明6・12・18 野中支校創立（野中村西禪寺の側）
- 明9・ 真南条下に一校を設く
- 明12・10 小枕小学校新設（小枕村経田の坪一反四畝歩寄附を受く）小枕、野中、北、明28・ 谷山、岩崎のみ、宇土は寺小屋式学校で教授後これを廃し小枕校へ通学。
- 明15・2 真南条三か村は同時に二村神社境内に草葺校舎新築、下の学校を廃してここに通学。
- 明20・4 真南条校焼失し、神官一瀬氏役宅の一部を仮校舎に教授せり。



- 明22・ 味間簡易小学校内に小枕小学校分教場を設置、明25・4・1 勅令215号小学校令施行につき、城南味間の両村分立し城南村に小枕尋常学校、真南条尋常学校を設立。
- 明28・ 小枕校は年所を経ること久しく、真南条校も神官役宅にして満足な教育出来ず、時の村内有力者の反対をおしきり時の村長団野喜平治氏教育上改築
- 
- 二村神社護摩堂

明29・3・10	上棟式、この日を創立記念日とす。	大13・10・20	招魂社建立（在郷軍人会、青年団協力し関東大震災に関する社会奉仕の報酬を基金として運動場西南隅）
明31・1・7	両校を廃して城南尋常小学校と改称、真南条尋常小学校は真南条中段の坪に新築。	昭2・8	家事室改造、青年団奉仕砂持ち
明41・4・1	尋常小学校は分教場と尋常二年まで収容 義務教育延長、尋常科五・六年二学級と高等科を設置すべく決議。	昭2・10	教室五便所改築竣工
明42・3・25	尋常科二教室を増築五百六十九円なり。	昭4・5・28	小学校裁縫室を机式に改造
明42・4・1	城南尋常高等小学校と改称	昭4・10・23	県指定第七回学事合同視察を受けた
明42・10・13	高等科二教室新築二千余円なり	昭5・7・14	校章新創定
明45・7・1	この日を（戊申詔書御下賜）創立記念日に改められる。	昭5・11・24	4年より運動場拡張地均なる、この間青年団
大元・12・15	法令改正家事室、裁縫室、手工室増築	昭16・4・1	92名在郷軍人会100余名尋五・六職員等奉仕
大7・4	落成式一千六百七十円五十銭	昭20・10・11	校舎改築着工、教育令改正、城南国民学校と改称
大10・4・12	運動場拡張	昭22・4・1	新校舎落成式を行う
大13・10・5	分教場改築、奉安庫、講堂落成、一万三千五 十円	昭26・7・18	六・三制実施により国民学校を廃止し城南小学校と改め、高等科はなくなり三年制義務教育の中学校が発足し本校内に併置される。
昭30・4・15	第二回県主催体操科研究会開催參觀者約二百 五十名	昭30・3・26	講堂落成式（四〇七万五千円） 分校新築落成式

昭32	・	1	制服制定
昭32	・	5	運動場時計新設
昭32	・	25	栗栖野部落通学区変更
昭34	・	21	塵埃焼却炉新設
昭34	・	24	皇太子殿下御成婚記念庭園完成、(育友会)
昭35	・	23	学校完全給食開始、校区内多大のご協力を得て完工、落成式を3月1日11時より挙行する。
昭39	・	29	プール完工式
昭39	・	5	町関係及校区内はもちろん、先輩諸氏の厚い志によりついに完成
昭39	・	1	(五・三五六・一〇〇円)
昭39	・	4	男女水泳着制定
昭42	・	2	併設の中学校の新校舎新築に伴い城南小学校は単独校舎となる。
昭42	・	2	岩石園設置
昭43	・	7	真南条分校廃止翌日吸収統合
昭43	・	10	バラ園造成
昭43	・	8	中庭の用水池埋立て観察池、觀賞園設置(育友会)



昭43	・	9	校門拡張、フェンス新設
昭44	・	3	中庭に噴水池完成
昭46	・	1	城南小学校校歌改定

第8代
岸本龜三郎



T10. 9.27～S 3. 3.31

第7代
西羅岩太郎



T 6. 8.25～10. 9.10

第6代
本山貫之助



歴代校長

第1代
佐藤 勝長
M 6.12. 24～18. 2.5

第2代
佐藤源太郎
M 18. 3～21. 9.28

第3代
栗林 貞清
M 21. 12～26. 3.31

第4代
大峯 隆金
M 26. 3.31～37. 3.31

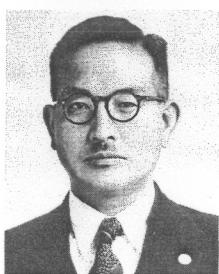
第5代
金井 哲雄
M 37. 3.31～42. 3.31

第12代
中代 正夫



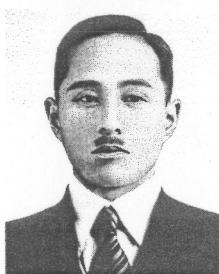
S 22. 4.20～24.

第15代
辻 嘉一郎



S 26. 4.1～36. 3.31

第14代
酒井初之進



S 24. 4.1～26. 4.1

第13代
前川 多逸



S 22. 4.20～24. 3.31

第19代
小林 俊弘



S 46. 4.1～

第18代
谷口 勝



S 43. 4.1～46. 3.31

第17代
河原 一男



S 40. 4.1～43. 4.1

第16代
四方長之進



S 36. 4.1～40. 3.31

戦争激烈の度を加えるに至るその時代の沿革史の一頁を紹介する。

昭和十三学年度

主要努力事項

1. 勤労教育の徹底
2. 消費節約と国民貯蓄の奨励
3. 体力の向上
4. 科学的基礎陶冶

昭和十六学年度
十二月八日

畏多くも米英に対し宣戦の大詔渙発あらせられ、大東亜戦争始まる。
其の感激言う能わず、翌十一日全校奉祝旗行列を村内に行ない、
各鎮守に詣ず。

昭和十九学年度

生炭作業

決戦下生薪炭の増産の急務なるに依り国民学校高等科も通年的動員が実施され、之が生産に当らしむ。

昭和二十学年度

一、学童の縁故疎開受け入れ

昭和二十一学年度

一、薪炭、食糧増産

生産割当木炭五百俵、薪二千七百五十束、完納す。大豆一石五斗

甘藷五百貫、馬鈴薯四百五十貫生産せり。

ここに昭和十五年の元旦を迎えて恭しく、聖寿の万才を寿ぎ奉り、
いよいよ肇国の精神を顕揚し、強力日本を建設して新東亜建設の
聖業定遂に邁進し、以て紀元二千六百年を光輝ある年たらしむる
ことを堅くお誓い申します。

昭和十五学年度

十一月十日午前十時四十五分より畏多くも天皇陛下臨席のもとに
宮城前広場に於て全国代表參集の上、紀元二千六百年記念式が行

一、夏期休業の廃止 国民精神総動員の趣旨を体し國家総力戦態勢に即応すべく從来の休業なる觀念を排し専ら心身の鍛練期間と改む
昭和十四学年度

一、聖戦第二年 本年度教育主要努力事項
青少年学徒に賜わりたる勅語の御趣旨を奉体、国民精神総動員運動と共に時局の認識銃後生活の強化徹底

一、皇紀二千六百年を迎う

誓詞

時の児童の姿はいざこに

なれその御模様を「ラジオ」放送に依て拝察しつつ記念式を挙

ぐ其の感激言う能わず、翌十一日全校奉祝旗行列を村内に行ない、
各鎮守に詣ず。

昭和十六学年度

恩師の思い出

城南小学校回想の記

中代正夫

思　い　出

前川多逸

の教育研究等々。二ーストについて上司村当局PTAの要請に断固答える決意決心を固めた。米国児童との交歓県下第一号もあつた。フィヒテに学んで純正醇美な国語教育と教聖ペスタロツチの教育討究実践による城南教育が私の第一義的祈念だつた。妨害抵抗困難々渢の道は始動し始め難かつた。

(未推稿のまゝ)

濠々淡々星霜春秋、幾十年の我が生涯にとつて教育生活四十五年校長三十七年の間、私の城南小時代は一世紀の学校史の一年に過ぎない。敗戦第二年昭和二十一年だけである。而して正に疾風怒濤激動変革の時代であつた。敗戦による総ての挫折断絶虚脱放心茫然虚無、国家民族政治経済文化精神的混沌価値觀の転倒に加えて、職員の多数異動教育は困難難渢を極めた。平和国家文化道義福祉國家、ヒューマニズムを基調としたコペルニクス的転回の占領軍政下の教育方策に急変民主主義、自由主義の弊害の面が著しく現われ、大正デモクラシーの洗礼を受けた筈の私も疑惑迷惘に捕われた。敗戦下砲音銃響の中で独逸国民に告ぐる歴史的大講演をやつて祖国復興を計つたフィヒテ・ヨハン・ゴットリーブは表われなかつた。戦々兢々占領軍教育政策に唯是従つた。丸山々頭の忠靈殿も忠魂碑奉安殿も影を消した。米軍が監察に来て鏡の廊下を土足でけがし、ガムをかみながら窓にこしかけて授業を観た。六二制実施の計画準備。六三一貫

私が、城南小学校に奉職しましたのは、昭和二十二年四月で、学制改革によつて、六三三制が実施され、城南国民学校が、城南小学校と、城南中学校の二つに生まれかわつた時でした。それで、中学校と小学校の二つが、元の校舎にあい住いして、南の校舎が中学校北の校舎が小学校ということになつて居ました。特別教室も運動場も共用で、小学校中学校の別なく、仲よく使いました。別に真南条に、一年生二年生の複式学級の分教場があり、先生一人が出張して授業していました。

緑の山や田畠に包まれた静かなところに建てられた赤い屋根、二階建ての整備された美しい校舎で、十数人の職員と四百人の児童が共にたのしく学びました。当時の村長さんは岩崎の酒井皎さんで、PTAは三百人の会員でしたが、村全体が学校教育に熱心で、大変御協力を賜わりましたことを、今尚厚く感謝しています。

職員室の空気は至極円満明朗で、放課後は、全員研究会や、職員

作業等で、励み合いました。大森貞夫先生が在勤一年で病魔に斃れ、七月二十三日さびしく小枕の墓地に送りましたことは悲しい出来事でした。

中学校特別教室の着工がはじまり、運動場の東側に、南北一棟、木造平家の数教室が、完成しました。

当時は、学芸会、運動会、競技会、旅行遠足等、学校行事が、きびしく規制をうけていましたが、郡内対校ドッチボール大会には優勝して、優勝旗を護得しました。児童の体格も優れていたように思います。

城南小学校は、うるわしい伝統を持つた、よい学校であり、城南小学校に居たことを誇りとしています。

終りに百年を迎えた城南小学校の、御多幸をお祈り致します。

十九年の思い出

酒井鉄男

私は昭和二年から全十九年迄城南小学校に、全三十五年から三十年迄城南中学校にお世話になりました。通算十九年間、心から親しくして戴き、今も心の故郷として共に学んだ方々の健康と幸福を祈らせて戴くことの喜びを強くかみしめて生活しています。現在は湊川相野学園にお世話になっていますが、城南の方々から同級会等のお招きを戴く毎に三十年四十年前の昔の追憶がまざまざと楽しい

思い出の中に再現して、この上ないなつかしさと感謝で一ぱいになります。

昭和の始から戦争色は濃くなり遂に大東亜戦争に突入し学校は小学校から国民学校となり、私が召集をうけた昭和十九年三月迄樂しい教育をと念じる心とはうらはらに襟元も寒くなる様な団体訓練、勤労奉仕等々に終始した事を今更乍ら申証なくお詫び申します。

才二回にお世話になつた昭和三十五年には戦の爪痕もおさまり教育は本来の姿を取り戻していました。小学校長は辻嘉一郎先生、育

友会長は辻幹雄会長（小）畠中信夫会長（中）で完全に小中一体となり校下の方々と共に完全に教育村城南の教育を推進して下さるし戦時中とは異なり生徒諸君に個人の尊さや生きる事の喜びを味あわせることが出来、毎日が楽しい日々でした。

他村に比して百%に近い高校進学率でありました関係上進学決定の参観日は夜の十二時を越したこともありました。生徒諸君の自觉、保護者方の理解と後援、先生方の必死の努力、こうした二者一起体のお蔭で十分とはいえなくとも、どうにかこの峠が越せたことを心からありがたく思っています。

最後に前後通算十九年、当時のなつかしい方々のお顔を一人一人思い浮かべ乍ら、いつ思い出してもほのぼのと心温まる学校の未来の発展を心から祈りつゝ、ペンを止めます。

城南小学校創立百周年に当りて

四方長之進

幾多の先人に敬意を捧げ併せて城南小学校の弥栄を心よりお祈りする次第である。

城南小学校創立百周年によせて

谷口勝

昭和三十六年四月國らずも私は城南小学校長を命ぜられた。思えば昭和十二年から十五年間に亘つて育て上げられた学校だから懐しい校門を入つて着任した時の感激は大きかつた。しかし創立以来米寿を迎えるとする榮誉と伝統を継ぐ事を考えると胸のしまりを感じたのである。九ヶ年の間には学校はすばらしく変つていた。育友会の活動も実に立派で理解ある協力を寄せられて今も頭の下がる思いである。想い出は多いが三十八年の春かねて待望の学校プールを建設して下さる事になつた。何分郡内に先がけての事だけに研究や諸計画又資金等並々ならぬ御苦心をかけたが時の先生方や育友会は勿論総代会や校下の各位同窓諸兄姉当局者と一丸となつての熱意がみのり九月には實に完備したプールが出来たのであるその御熱意は常に忘れることが出来ない。

四十年四月ここを最後に私は退職したが創立百周年の記念の年に当り思いを遠くに馳せて深い感動を覚える創立以来幾多先輩方の教育努力や各時代の校下人や当局者同窓者方の学校愛が丁度より合わされた一本の綱のように長く長く太まつて今日百周年という日を迎えたのでありこの綱は更に今後長く太っていく事であるそしてその綱の中に私も一本の糸としてあると思うと大きな喜びであると共に

城南小学校創立百周年をお迎えになつて、ここに盛大なる設念式典が計画され、併せて意義深い記念誌の発行されることを承つて、ご同慶にたえます。小生昭和四十三年四月新校長に採用され、城南小に着任を命ぜられました。氷上郡内のみに閉じこもつていた浅学非才の者が全く未知の地域の学校にとび込みますことに当初は大きな抵抗と不安を覚えていたのですが、すべてが杞憂でありました。自他共に許す名門校、恵まれた環境、素質の良い児童、協力的な育友会、加うるに各部落総代さんや地元出身の町会議員さんをはじめ校区民の方々の絶大なるご指導ご支援等極めて好条件揃いの中で、常に和をモットーとした家族的な職員同僚総力を結集致しまして、日々の積上げに微力を捧げて努力精進を続けて参りました。三年間本当に愉快に大過なく任務を全うさせて頂きましたこと終生忘れ得ず感謝の念で一杯であります。どうも有難うございました。

末筆ながら、開校百周年を契機とされまして、城南小学校の愈々の飛躍発展と全校区の皆様方の益々のご健勝をお祈りいたします。

城南校時代

二十三年間の回顧

佐 古 田 武

私が城南尋常高等学校に勤務することになったのは大正十五年四月で丁度三月に御影師範学校を卒業し四月から短期現役兵で篠山七十聯隊に五ヶ月入隊し、イガ栗頭で軍隊焼した黒い顔で除隊の翌日が第二学期の始業式とあつて挨拶して始めて担任したのが四年生野中の戸出健三、小枕の桧皮辰巳、宇土の小前九左衛門、次の年も四年生で、野中大西通夫、小枕畠中弥寿夫、谷山小林俊夫、宇土杉尾茂氏等です。

当時の校長は、岸本龜三郎氏で城南校は県下第一の体操学校、校長は一日中運動場に出て体育指導、時にはシャガンで煙草吸いながら、或時はムチを持つて生徒の間に入つて一人一人丁寧に指導、とても熱心な校長でした。

私が赴任して間もない日、県の体育主事や淡路から体育主任が体操の視察に来られ全校の体操を見ていただき、赴任間もない事とてオロオロしながら三十分程の指導の結果、元気でよく指導しているとの批評を受け赤面したのが第一印象、県下各地から毎日の様に参観に来られた。

当時の先生は小林米蔵、細見隆一、萩野敬太郎、萩野林四郎、湯浅信治郎、栗林はるせ、松原とら、羽田久子先生等であった。先生

の昼食は、男子の先生は宿直室、女子の先生は小使室で、一家団欒と言つた様でそれぞれ円座して食事をするのが特徴。私も第一日の昼食を宿直室で夏休中の先生方の話を聞いたり、軍隊生活の様を聞かれたりしているうち校長先生が君の弁当箱は新しいが小さい。それだけの弁当ではこの学校に勤まらない。Y先生の様な弁当箱を今日帰りに吉田金物店で買って帰れと、二十銭玉を渡されてびっくり。校長先生の話の通り、毎日二時間も体操をするのだからそのはずだつた。腹のへることおびただしい。当時の高学年の体操の上手なこと先生以上で実に優秀なもので、オリンピックでもあれば城南から金メダル組が何人か出た事と思う。

◇ ◇ ◇ ◇

私は城南校に大正十五年から昭和十五年三月まで丁度十五ヶ年と今田尋常高等学校に一年間転任して翌昭和十六年四月に城南国民学校に帰つて来て、昭和二十四年四月後川中学校長として転任するまで八ヶ年前後合せて二十三ヶ年間御厄介になり親と子を教えた方も何人がある。この二十三ヶ年を回顧してみると色々の事が走馬燈の様に浮んで来る。

昭和八年三月十九日関東軍司令官であった本庄繁閣下が凱旋され全村あげての歓迎。校門前にアーチを作り「本庄將軍凱旋歓迎記念碑」の除幕式、四斗樽や鏡餅、りんごをおけに入れて飾るやら学校前の街道の両側には全校生徒をはじめ、村民一同が整列するなかを

表の歓迎の辞があり歓迎会が開催され「忠誠」の揮毫を願つたのでした。



城南校旧校舎は街道に面してコの字なりに建つた校舎の真正正面に玄関があり、その前に奉安殿（両陛下の御写真や勅語類を入れる）がありそのすぐ側に大きな楠が一本繁り、校舎の東側には更に広々とした運動場その東側には肋木、水平棒がづらりとならび、北側には高鉄棒、低鉄棒があつて運動場もシックイの様になめらかで小石一つなくさすが体操学校、広々とした運動場で生徒は皆ハダシで体操していた。

校舎寄には、きれいな池があつて藤棚があり白、柴の花房がきれいでさがつてとてもすばらしい眺であつた。藤の花に集る蜂を帽子で取る生徒もあり、時には蜂にさされ悲鳴を上げる生徒もいた。

現校舎は小林孝村長時代昭和十六年四月に着工昭和二十年十月竣工したもの、事変中の事とて、相当長い年月を要したのも大工、左官等の職人が次々と応召し、時には二、三人の時が相等続いた様だ。資材難はもとより職人方も食糧難で村長もお困りの様だった。丁度学校附近の田の持主が応召し耕作出来なくなつた田を高等科の農業実習田として学校に委託された。その当時の高等科一、二年で八十人程でした。この様な田五・六反を学校で耕作せねばならなくなつて、その上農業の先生が応召され百姓に経験のない私が百姓生れであるといつたことで農業科も担任することになり、北村の渋谷金次

郎さん飼育の種牛を借用して男子諸君は交代で田拵え、女子は田植と、秋の収穫には二十俵も新校舎の一室に積上げた。その米は少しも供出せず村長さんの命により建築関係者に現物支給された事等で立派に竣工式が行なわれた。

戦争が日一日とたけなわになり、食糧難となるや広い運動場も畠にし甘藷作り、篠山農学校や県の試験場から甘藷の苗を取りよせ各種の比較栽培をし、最も多収で味のよい品種を小山の南側桧皮さんの納屋の前で温床を作り二、三十貫の甘藷の芽出をしたら一晩の内に三分の一程も親も子も何物かにやられ、これは何とかせしめてやろうとそばの小屋で不寢番をしたが、ついに犯人はつかまらず残念至極の時もあつた。

食糧難と同時に油難で木炭焼をした。小山の麓に広瀬氏（現小枕の畠屋さん）の指導で二つ、小枕奥に一つ、生徒諸君もよく頑張ってくれるし、先生方も頑張った。或日曜日小枕奥の窯の前焚に行つた先生が、焼柿をして食い柿が沢山減つたと持主からボヤカれる等、大人顔負の危険な重労働でありながら、一人の怪我をした生徒もなく緊張そのもので当時の思い出はつきない。

終戦後昭和二十二年四月六・三制の学制改革実施に伴い城南村に新制中学が開設、小学校と並置され中学校長に国民学校長の中代正夫氏が小学校長に前川多逸氏が赴任され、私は昭和二十四年四月後川中学校長に転任二度すれば三度する事がある。こんどは必ず城南中学校長で帰りますと、暫くのお別を告げ転任した。

教職生活三十八ヶ年内、二十三ヶ年間も城南校で御厄介になり
どのお宅に行つてもお一人ぐらいたは教えていた。城南は実によいお
村、私の故郷より以上思い出はつきず、綴りたい事は沢山ある。紙
面の都合もある様でこの辺で失礼し、最後に城南校の隆昌発展を祈
念すると共に、同窓の皆々様の御健康と御多幸を祈りつつ……。

(昭和四七・八・二五)



昭和8年3月 大先輩の本庄繁大将と共に

同窓会員の声

世の変り

宇土 佐円伝治郎

追憶

酒井みのる

い人は、両親（良心）にさからわない方が一番えらい方と信じます。種々と私の生立ちようを、くだらぬ事を申しましたが悪しからず、然し何といつても健康がオ一でするので、皆さん共に手を取り、無事で達者で壯健で、米寿の峠乗りこえて、百成山によじ登り、帰りは八百屋の店先で、千成ひょうたんお土産に買ふて来ますよ、待つてね

小学校創立百年と月日は流れ、私の年も七十六才と老先短き年となりました、然し子供の時を思いますと、明治三十七年四月城南尋常小学校に入学致し、其時学級は四組で私の学年は五十人程で、先生より色々と話をして貰い、ほんに学校と云ふ所は何と面白い所であると毎日よろこんで行きました。

だが今とは違ひ日和は草履、雨降りは下駄、雪の時は足袋はだしこそにて、通わなければならぬのでした、一年生より四年生迄で、三四年に成ると上級生なので、行き帰りには年少生のめんどうを見なければならぬので、私のかばんの中にはいつも下駄のはなごの二つ三つは持つていたのです。

記念誌の世話役大西さんからの肩こらないものをとの仰せに従い

幼時の追憶を綴ろう。

その頃の母校は門の両側にカラタチの生垣があり、東に玄関、南北に校舎がコの字形に建ち、中央が校庭兼運動場となつてゐたが、入学間もなくの体操の時間にそこで整列して先づは行進の練習、一

明治四十一年四月に篠山高等小学校に入學し二ヶ年にて、各村に高等小学校が出来て、私等は高等小学一年生として又も城南に帰り、二年後卒業し、其間各先生より今後社会人となるには、何といつても誠でなければだめとの教を、常に胸に持ち今尚私も世の中でえら

二々々や左右々々の号令をかけられたが、右や左さえ知らない一年生にそうした号令は徹底する筈はなくバタリ／＼と仲々歩調は揃わない、そこで先生考えたか今度は茶碗、箸／＼＼の号令に切替えた途端、効果はテキメン足並は整然と揃つた。以上は食い氣を利用

した久下先生発案の珍号令だが、ついでだから珍答を披露しよう。

修身の時間に先生から孝行とはと問われて即答も出来ず皆んなも

じくしてゐた処平素は至極内気だつたS君敢然と挙手してコウコ

とは漬物の事との珍答に俄然爆笑がわくという一幕も痛快な思い出

だが、昔の修身科が道徳教育を授けて呉れた効果はありがたい。

尚その当時校歌として口ずさんだ「縁は深き鍋塚や（中略）問い合わせつ究めつ試しみつ智恵の泉を堪えなん」の歌詞も今だに印象深い等々悲喜こもぐの数々の思い出は今も私の脳裡を走馬燈の様に往来して一しおなつかしい。

創立百周年を迎える母校は多数の生徒に智徳体の大切な教育を授け、永年の風雪と幾多の曲折によく耐えて、春夏秋冬の眺めも美しい四季山の麓で今も尚、子弟教育の場としての大役を果し続けてゐることは嬉しい限りであり、この度の記念事業の一環として新設されたシンボル・ゾーンの竿頭高くはためく校旗と名校長のもとで未来を背負う有為の人材が多数輩出されるやうひたすら祈つて擲筆する。

來たように思います。

今の学生は目に余つたいたずらはしないが、どことなく活気が無いのではなかろうか？

先輩として、親として責任を感じるのであります。これは余りにも小供達をかまい過ぎはしないだろうか、深く考え反省いたそうではありませんか？私等小学生の時分は親は余り小さなことには干渉しなかつたようになります。それ故自由に行動ができる、自然に責任を感じるようになったと思われます。

しかしこわかつたですね。おやじや先輩は渡瀬先生のムチも!!又職員室の裏の藤棚や池も目にうかびます。運動したあとで飲む小使室前の井戸の水の味等々思い出はつきませんが、与えられた紙面がつきましたのでこのへんで失礼いたします。

思いでの断片

真上　辻　幹雄

城南小学校百年に憶う

小枕 小林 隆一

昭和三十年合併による城南村解消最後の村長として一言お祝い申し上げます。

この一世紀は日本の最も大きな変革期であり、特に私等の中には大きなショックは、あの敗戦であり、特に私等は満州国生みの親として活躍された本庄将軍の印象であります。

終戦後進駐軍の上陸とともにいろいろ問題を投げかけられ當時私村長として非公式ではあつたが校庭にそびゆる本庄将軍凱旋歓迎記念碑の問題がありました。終戦直後これが倒されて土中に埋めてありました。私議会の皆様のご同意を得てこれを原型に復し、今日の将軍を偲び、母校を偲ぶ一つのよすがとして再建してもらつた事であります。進駐軍からはその後何の指示もうけておりません。

本校は先の村長小林孝氏のご努力により小学校は全部新築して偉容を誇つておりましたが、村民の憩の場でもある小学校講堂がなく非常に学校も苦痛を感じておりますが、私の村長としてのはじめの仕事として議会並びに住民の皆様の非常なご協力を得て、國からも県からも一銭の補助もない年に建築を施行しここに完備した城南小学校の出現を見たわけであり、この時請負として世話になつた栗

栖野出身の酒井弥三郎氏、また母子永澤寺のご好意には強く頭の下る次第でございます。

過去を偲び、城南を発展的解消し、丹南町を生んだ責任者の一人として悪筆呈上いたします。

城南小学校百年記念に贈る詩

故郷を離れて顧う母校百年

川西市 辻 才三

ふるさとの

光のうちに浮びくる

遠き記憶に残れるは

あまたの友をなつかしむ

四十五年をさかのぼる

城の南に位置占めて

おさなき胸にしみこみし

歴史伝えし里人が

竹馬の友の顔なりき

文明開化の風の中

螢の光窓の雪

郷土に幸をもとめるに

耳にのこれる春の日よ

この上もなき宝とは

指おり数えそれぞれの

人にこそあれ尊^{たう}ときは

別れし恩師しのびつつ

教育なりと学校を

つたなき文字を列べたて

創めてここに百年を

学びの庭の百年の

過ぎしは時の流れこそ

早きと知るも教育の

きびしき道は長からん

やさしき自然のふところに

素朴に純に育ちたる

伸びく新芽が朝夕に

導かれたる小学校

めでたく終えて出づる時

胸に咲きたるバラ色の

希望抱きて発ちゆきし

童児の姿見守りて

変らざるもの山河あり

駒鞍ヶ岳こまねのときわ木に

流れを発しひがし北

小枕野中と北村や

豊饒の地を養ないて

篠山川に沿いつつも

谷山をへて岩崎へ

ひろがる果くだは宇土にあり

ここに觀音居ます山

御堂みどういだきてそびえあり

南の山や北の山

はさまるところ真南条
一条にのび栗柄野に

到れば空にあかねさし

赤き夕陽にそまりつつ

藁山わらやまの上に遊びたる

昔の友にあう如し

上中下かみなかごろの山村に

愛宕あたごの山の雷雲らいうんは

かわらぬ慈雨じうをそそぎたり

来し方遠くふり返り

徒らに過ぎし悔恨かいにんも

僅のといとまありし時

われに童児どうじのおもかげを

鏡の前にもとめ見て

小学時代六年の

年年のことたどりゆく

その時にこそ消え去るは

慰めありてたのしかり

母校の発展と同窓の皆様のご健斗を祈ります。

一九七二年

久しぶりで小学生になつて多くの同窓生と遊んで

いる気持でこれを書きました。

なつかしきふるさとの空北に見て

つきぬ思いに独りしたりぬ



思　い　出

谷山　西牧八千代

今静かに目を閉じると私達が通学しました小学校の姿を思い出します。この字型の平屋建校舎正面の玄関、それを覆うように茂った大きな楠、その横が奉安殿登下校には必ず最敬礼をいたしましたね。玄関の南が職員室入口に偉大な教育者ペスタロツチの額が掲げられ

腰までもない一年生をつれてよく散歩されましたね。私が五、六年生の頃小林先生の作詞による校歌が制定されました。「城南若し」「城南強し」と誇らしくうたいましたね。今小林先生をお招きすることが出来たらきっとこうおつしやるでしょう。「ホーこれが城南小学校ですか、随分立派になりましたね。そして皆様もよく年を寄せましたね」と。あの小学校を卒業してから早四十年近く、ハテ私は何をして来たのでしよう。

かの友よ小山の夕日冬の窓

想い出つきぬ　学びやの庭

北　渋　谷　保

昭和一ヶタのころ

私達にとって一番恐しい所でもあったのです。北の奥の小さな小使室腰の曲つたおばさんがいつも何かを煮ていました。大きな茶釜があり、マクリの後では毎日にがいお茶を呑みましたね。その横が講堂兼雨天体操場で全校の行事すべてが行なわれ、三大節にはお饅頭をいたゞきましたね。又こゝで鬼ごっこや、まりつきをしてよく遊びました。校内の規律は高等二年生の週番によつて守られていて、週番の赤い襷が印象深く無言の威圧を感じたものでしたね。又運動会には部落対抗競技があり、その日ばかりはライバル同志一生懸命走りました。夏休みになると、早起会、学習会、運動会の練習、家の手伝いと子供心にも忙しかつたようになります。私達の服装は着物にわら草履が普通でした。その頃洋服に皮靴姿の先生は全く別世界の人のように思いあこがれの的でしたそして誰よりも尊敬していましたね。小学一、二年は小林米藏先生にお世話をなりました。上品な髪、眼鏡の奥の柔軟なまなざしを覚えていて、長身の先生がか

わたしらが、城南小学校に入学したのは、昭和五年四月で、もう四十年も前のことだから、記憶も薄れたが、当時の学校はコの字型の平屋建で、中央の一棟に職員室があり、その棟の東が運動場、西は校舎（教室）二棟の間が校庭になっていた。朝会は尋常科六学年高等科二学年の全校生が校庭に整列して行なわれた。中央部に奉安殿があり、高一（最上級生）の級長が「鳥なく東なる」と大声で叫ぶと全校生がそのあと文句を何かボソボソいって祈りを獻げてか

ら始められた。授業は四十五分受けると十五分の休けいがあり、休けい時には学年ごと一団となつて校庭や運動場に飛び出し、男子は

マリケリ、軍艦遊び、女子は縄とび、陣取り等、運動場一ぱいつかつて暴れ廻つたものだ。運動会は毎年十月十三日に決まつており、

部落対抗の競技（学年別の走り・相撲・幅跳・高跳等）が人気を集めていた。

このため、各部落とも夏休（八月）に入ると運動会に出る選手を決めるためのけいこが始まった。北村の場合、当時の軍隊が使つていたようなラッパがあつて当番がラッパを吹くと直ちに集まり練習が始められた。相撲は寺の庭に挽粉をませた土俵をつくり、炎天下で何回も取組みを繰り返すので、汗と挽粉で泥まみれになり、裸のままで衣類を小脇に篠山川に行き、夕方の走りけいこの時間まで存分に遊んだものだ。走りは街道と呼んでいた県道を主として部落内の道路を利用して、百・二百・四百等コースを決めて練習した。県道で運動会のけいこをしたり、川で泳いだりすることは現在の子供たちには想像もつかない遊びだが、古きよき時代の生活の智恵といつたものを感じさせる昭和一ヶタ時代の懐しい思い出である。

「小学校の思い出」からしさか脱線したが、与えられたスペースも終りになつたので、百年を迎えた城南校の今後の発展を祈つて拙稿を終えることにする。

想　い　出

堺市　田　中　恭　雄

激動と変化の時代のなかで私達を取りまく環境は非常に厳しく日々の変化に対応するだけで精いっぱいといった気持ちが起ころる昨今でございます。

通貨・物価・国際政治をはじめ公害、教育の諸問題等についても従来の固定観念では対処しきれない事象が多く、分析をすればする程問題の根が深く困惑してしまいます。

日一日と進歩発展する時の流れが歴史をつくるとすれば、母校城南小学校の「創立百年」というのは正に偉大なエポックメイキングなものと言えるでしょう。創立百年の歩みは明治以来の現代日本そのものの歩みでもあるわけですから。流転する日本現代史における我が母校の存在価値は何であつたか、今その意義を正しく認識するとともに未来への展望を図ろうというのが母校創立百周年の記念事業の意味ではないでしょうか？

小高い山々に囲まれた田園の中の母校は今も昔の面影をとどめ、異郷にあつてもその美しく華麗な学舎とともに懐しい人達のことが想い出されてくるものです。山紫水明の平和な教育環境に恵まれて少年期を過ごした私は女教師O先生をはじめ、諸先生の熱意あふれるご指導の下に「アイウエオ」の「ア」から学んでいったのです。

単なる詰め込み主義的な智育偏重の教育ではなく、野山に遊び雪合戦、かくれんぼ等々に象徴される人間的接触を重視した人間教育を徹底的に教えた小学校時代です。いわば〇先生を介して心と

心の触れ合う人間関係をつくりあげる教育の場——これが母校城南小学校の姿であり、私の想い出なのです。

そして、ともすれば複雑な現代社会機構の中の「ストレイシープ（迷える小羊）」である私にとっては小学校時代の想い出がときには精神的支柱となつて厳しい生存競争に打ち克つための確固たる信念を与えてくれるのです。これもひとえに諸先生、諸先輩の暖かいご導きの賜と感謝する次第でございます。

地方と都市の地域格差、また人口流出等々難しい問題が山積しておりますが、数々の優秀な諸先輩を世に送り出した城南小学校創立百年を契機にして城南地区のより一層の発展を祈念致しますとともに諸先輩の皆様の驥尾に附して精進したいと思つていますので今後ともよろしくご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

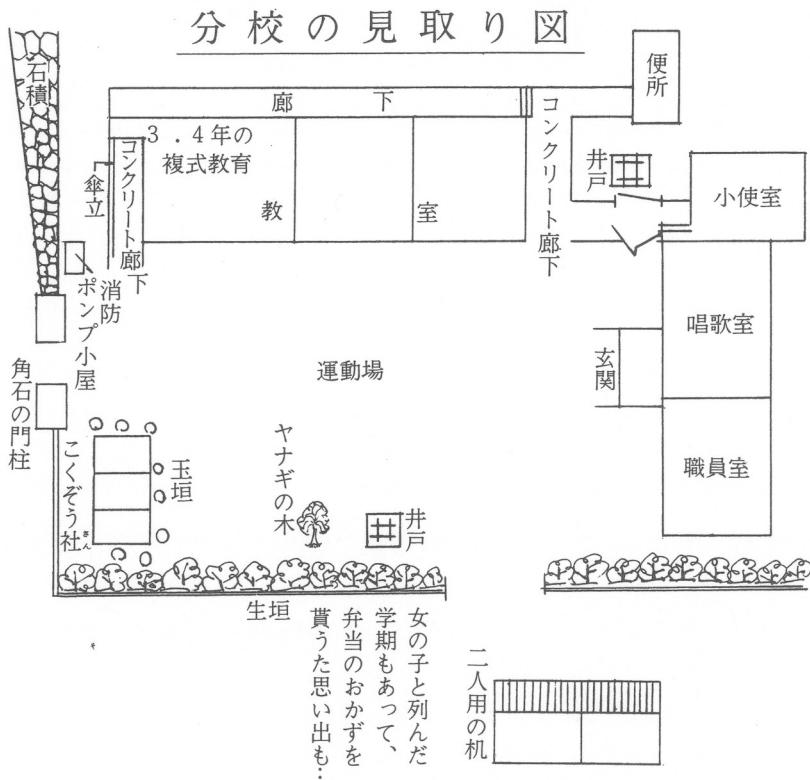
昭和三十二年卒業

三和銀行本店営業部勤務

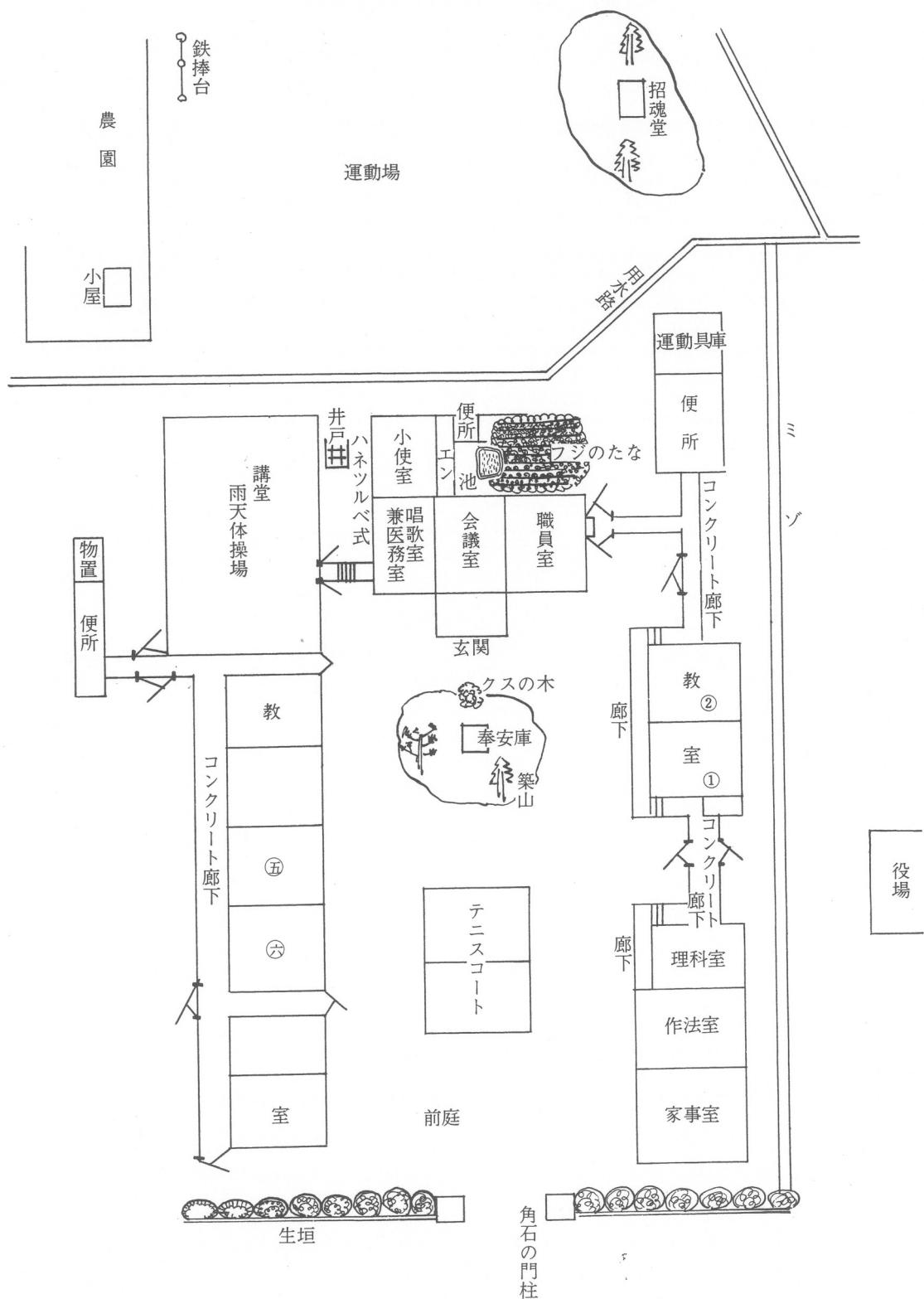
思い出のある処其の男彼の女
それぐの

栗栖野 酒 井 達 雄

百年分の一時代、我等のうけた教育の学舎城南尋常高等小学校、同真南条分教場その見取り図は、こんな具合だつた。記憶もたしかなことでない。



本校の見取り図



ひやくねんさいを

むかえて

一年 小林美保

ひやくねんさいを

むかえて

一年 さかいひろむ

じょうなんしようがつこうができる、ことしでひやくねんになるそうです。このあいだおとうさんがくらのなかをかたづけていると、がつこうができたことをおいわいするおさかづきが一つでてきました。どんぶりばちぐらいのおきいものです。はこのふたに小林かえもんし、と、かいてあります。わたしのおじいさんのおじいさんのときだそ

うです。ながいあいだくらのなかでおねむりをしていまし

たが、いまそとへでてきてびっくりしているでしよう。わたしもむかしのしゃしんをみせてもらつていまのがつこうがりつぱだとおもいました。ひやくねんのあいだにおおぜいのひとが、とおくからあるいてべんきようにきたことでしよう。いまは、バスでがつこうにいっています。いろんなどうぐもあつて、がつこうがたのしいです。わたしは、むかしのひとに、まけないように、いつしようけんめいにべんきようをしようともいます。

ぼくは、じょうなんしようがつこうの一ねんです。じょうなんしようがつこうは、ことしで、ひやくねんめやそうです。うちの、おじいさんは、六十五です。じょうなんしようがつこうのほうが、三十五もとしよりです。じょうなんしようがつこうは、おじいさんのおとうさんのとき、できたんやろうかとおもいます。

もつとまえにできたんやろうかとおもいます。おじいさんは、せいふくをきんと、きものをきて、じょうなんしようがつこうへ、いつたそです。ひやくねんまえやつたら、どんなかつこうでいつたつたんやろうとおもいます。ぼくは、かばんにほんや、ちようめんやふでばこをいれて、ていきをひもでつけて、バスにのつて、いきります。むかしのひとはかばんをもたんと、ふろしきでつつんで、いつたつたそです。バスやなしに、あるいて、いつたつたそ

学校の百年さい

いちのせ さだあき

二年 かつむら けいこ

おばあちゃんの むかしばなし

ことしは、学校の百かいめの、おたんじょう日です。おとうさんに「学校の百年やで」というと、おとうさんは「百年前いうたら、貞明の、おじいちゃんの、おとうさんが、学校へ、行きよつてのじぶんやで」というたつた。ぼくは「百年前いうたら、どんなかつこうで、べんきょうしとつたつてんやろう」といいました。「一ぺん、百かじてんでしらべてみ」というたつたのでしらべた。むかしは学校のことを、てらこやといいました。たたみの上で、きものをきて、べんきょうしていた。よみ、かき、そろばんのべんきょうだけでした。今のぼくらの学校には、プールや、としょかんや、テレビがあつてべんりです。そのかわりべんきょうがおおいです。むかしの人はあるいたり、ランプでべんきょうしたり、ふべんなことがいつぱいあつたけどよくがんばつたつたとおもいます。

ことしは、わたしたちの学校の百年祭です。わたしのおばあさんは、いま七十七さいです。おばあさんが、入学したときは、たもとのきものに、えびちやのはかまに、こつぽりげたをはいたそうです。そして、学校も、ひらやだてのそまつなもので、つくえもふたりづつすわり、本をいれるところと、すずりをいれるところがべつべつで、いすも、もたれるところがなく、ただながいものであつたらしいです。そして、おてんきの日は、家でつくつたわらぞうり。雨の日は、さしげたをはいてかよつたそうです。むかしのおはなしを、いろいろときいて、いまは、学校も先生もりっぱだから、わたしも、むかしのひとにまけないように、もつと、もつと、がんばらなければならなと、おもいますた。

百年さいをむかえて

三年 畑 中 寿

じょうなん小学校 百年さい

三年 杉 本 光代

ぼくたちの学校がたつてから百年を、むかえておめでとう。ぼくは、おじいさんから昔の話をたくさんきいた。昔は運動場のくすの木は小さい木だつたけれど、百年もくれてたいへん大きくなつた。いまはすずしい木かげができるぼくたちが遊べるようになつた。

くすの木に、きいたらむかしのことも今のことともいちばんよくしっているだろうな。

おとうさんや、おじいさんのころは生とが多かつたので運動場がせまかつた。でも今は生とが百三十三人。

学校のたてものは、今は、二かいだちの、りつぱな、学校ですが、むかしはきたない、ひくい、学校だつたそうです。せいとも、みんな、きものを、きて、わらのぞうりを、はいて、いたそうです。

また、先生は、よく、せいとを、たたいて、しかりましたが、いまの、先生は、わたしたちの、よいおともだちになつて、いろいろなことを、おしえて、くださいます。なにごとも、たいへんかわりました。

わたしたちは、よくなつた学校で、べんきょうができる、うれしいので、がんばつて、べんきょうをします。

りかしつ、とてもうれしいランチルーム、ぼくらの、会ぎしつなどたのしいきょうしつが、たくさんある。ひろびろとした学校と、一番早くできたプールでうんとがんばろう。

じょうなん小学校ができてから、もう、百年になります。一ばん、はじめに、小学校をあがつた人が、いきておられたら、百十一さいになつておられます。

たいへんとしよりです。

学校そくりつ百年

四年 前川 久美子

城南小学校ができて、今年は百年目になるそうです。ずいぶんむかしにたつたのですね。

学校は、百才、私は十才。とおいとおいむかしに、私たちの学校が生まれたのです。

おじいさんにきくと、その頃の学校は、平屋だての小さいもので、玄関の前に大きいくすの木が、そびえていて、運動場も、もっと、もっとせまかつたそうです。

そしてふたりづつ、すわる机で勉強したそうです。

今は校門も新しくなつたし、校しやも大きくなつています。

今年は、むかしとちがつて文化がはつたつして、学校のせつびがととのい、勉強も運動もやりやすくなっています。今年は百しゆうねんの文化祭に、ひろい運動場をかけまわりたい。そして勉強もいつしようけんめいして、大きくなつたらよの中のやくにたつ人になりたいと思います。

私たちは、勉強や運動に、一しようけんめい、がんばります。

今年は、城南小学校の、百年祭です。

長い、年月に、雨、風、あらし、いろいろなものを、ともにうけて、百年祭になつたのです。めでたい、めでたい年です。十月十三日は、小学校の、生徒だけではなく城南の人全部が、さんかして、運動会が、開かれます。

今わたしたちは、バトンクラブで、一生けんめい、れん習をしています。「今年の、運動会には、この、バトンクラブ十八人で、みんなを、おどろかせましょう。」と、小林先生と、約そくしました。ちよつぴり心配ですが、十月十三日の、運動会が、楽しみです。

学校が、はじめて出きたころには、小学校や、中学校は、今の、ようには、だれもが、いけなくて、ごく一部の人だけでした。そのことと、くらべると、学校は、広いし勉強のためになるものは、何でも、そろつてあるし、古くなつたら、しゅうぜんしたり、新しく買って、くださる。

四年 酒井 由利枝

城南小学校そくり立記念

百年祭をむかえて

五年 畑 中 美 穂

五年 本 荘 貴

私たちの学校は長い年月をこえ、風にも雨にも負けないで百年をむかえておめでとう。

おじいさんの時は、くすの木が玄関にあつてその頃は、今よりもっとよくしげつていたそうです。かげでよく遊んだそうです。お父さんの五年生の時、校舎が建てかえられて大きくなつた。生徒も多く、教室は一ぱいだつたそうです。

その頃、くすの木は、運動場のまん中にあつて、お父さんもこの木のかげで運動や作業の休みに汗をふいたそうです。おじいさんの頃から大きかつたくすの木は、学校と同じ百才位だと思います。卒業した人々を見守つてきしたこと思います。私たちは、教室もたくさんあいています。五、六年は新しいつくれです。

一、二、三、四年は木のつくれです。お父さんの時は、一、二、三、四年よりもっと古いつくれだつたそうです。

ここで勉強をする私たちはしあわせです。

私たちの学校は、明治五年にたてられたので今年で百年になります。十月にはそのお祝いがあります。たくさんの中学生が、色々ときねんになる事を考えておられます。

六十年ほど前の学校は、今の運動場をかこんで、一階建ての校しゃがコの字形に建つており、げん関に大きくすの木があつたのです。こうどうがなかつたので三つの教室の間の戸をはずして式をしたそうです。

一年生から六年生までの子どもの数は今の二倍ぐらいで、だれもきものをきてぞうりやげたをはいていたと言います。学校の行き帰りはみんな、ならんで元気よく歩きました。毎日体育や勉強に力を入れました。すべての合図は、用務のおじさんが大きなリンを手でふつて知らせました。今考えると、何もかもがすつかりかわつてりっぱな学校にな

りました。

百年祭をむかえて

百年祭をむかえて

五年
小林裕子

百年祭をむかえ

五年 酒井直則

私にはちよつと想ぞうがつかない様な今から約三十年前の学校の様子で、大東亜戦争中の城南国民学校という名前

ぼくの家には、としよりがいないのであまり前のことは
わかりません。

のころのことです。木造平屋の校舎に約五百名ほどの生徒さんが約十八名ほどの先生がこられて勉強されたそうです。学校で式の時は校長先生が勅語を読まれ、毎日朝会と集会があり、その時連絡じこうがあつたそうです。校内放送

前の学校は、もんぺにわらぞうりだつたそうです。前はふんすい池もテレビもプールもないと思いました。前は、いまのようには校舎はいつしょだと思ひましたが、城南小学校、城南中学校があつたそうです。

テレビがなくてラジオがたつた一つ、しょく員室にあつた

だけ。ピアノがなくてオルガンだけ。ベルがなくてかねで用務のおじさんに授業の終始を知らされたそうです。

からない面もたくさんあります。

昔の人にくらべ、そして現在でも都会のこう害のある町に住んでいる子供にくらべ、私達はめぐまれたかんきょうの中、勉強に運動にしつかりはげみたいと思います。

いまは、城南小学校はいまのとおりで、城南中学校は、
音楽室や、職員室があつた方にあつたそうです。
庭園がある所に、くすの木とほうあんでんがあつて、そ
のくすの木の後に、職員室があつてその左の方に小使室が
あつたそうです。ぼくは、いまとあまりかわつていないと
思いましたが、だいぶかわつていたことにびっくりしまし
た。いまぶらんこやつりわのある所に教室があつて、校舎
がほうあんでんの左がわにあつたそうです。前は、いま中
庭の所に池があつてきんぎよ、こいがいたそうです。

城南小学校開校百年

六年 畑 中 憲也

六年 本 荘 泰 司

ぼくが、生まれる八十八年も前に、城南小学校が開校されていたのだと思うと、ぼくには、開校当時が、どんな学校だったのか、想像もできません。きっと、むかしは、校舎も小さく運動場もせまかったでしょう。父の小学生のころは、戦争のために、運動場も、畠になつてさつまいもや豆が、植えられていたそうです。むかしにくらべると、今では、教室にもテレビがつき、プールもできました。運動場もひろくなり、力いっぱいに運動もできます。ぼくたちは、とても、めぐまれていると思います。でも、むかしの

明治五年、今から、およそ百年前、城南小という、小学校ができた。百年と言つても、たいへんな年月である。その、百年の中には、生との人たちや、先生がたが作つてくれた、歴史や、おもかげがある。

その一つの、おもかげとして、どつしり、すわつているくすの木、松の木、ポプラの木などがある。それに校舎の木造建ちくや、新しい小学校では、みられない、どくとくの校舎の形。そんな校舎は、何かを、ひきつけているようだ。

人たちは、不自由な中でも、いつしようけんめい勉強しつづけをきたえ、心をきたえていたのだと思います。

開校百年の年に、ぼくは、城南小学校六年になりました。最上級生として、はずかしくないように、がんばりたいと思います。

この百年の間に、いろいろな事があつたり、おこつたり、しただろう。そんな事をみんな、校舎や、運動場、その他いろいろな物が、みていたにちがいない。今まで、よくやつてくれた。城南小の、かがやかしい百年目を「おめでとう、よくやつた。これからもたのむぞ」と言つて、迎えてやりたい。

城南小学校百年

城南小学校百年

六年 西井保子

六年 木下好子

私は、この作文を書くために、お母さんからそのころの学校のようすを聞いてみた。

「えつ、そんなこともう忘れたわ」と、言いながらも母は、もどかしそうに語ってくれるのだった。私は、うなずきながらも無言のままメモを続けた。メモの内容は、次の通りである。

「そのころは運動場が、マメ・サツマイモなどの野菜畑にされ、遊具もブランコ・鉄ぼうなどしかなかつたそうだ。小学校を国民学校と呼んでいたそうだ。それに、先生や生徒の服そつは、戦とくぼうにゲートル。モンペにわらぞうりといつたものだそうだ。」

私は、今と比べてだいぶちがうなど思い、自分達を幸せに思うのである。

百年もの伝統ある城南小学校、これからもこの伝統を引き継ぐでほしいものである。

わたしたちの今、勉強をするために通つてゐる所がもう百年たつたらしい。

わたしの祖父は、六十九才、父は四十一才である。祖父の時の衣服は、きものらしい。父の時は、「祖母（母）にせいふくを作つてもらつていた。」と言われた。祖父は、「やはり日本人はきものだな。」と言つていた。教科書は

今と大ちがい。兄妹ともかしあいをしていたそうだ。兄から妹・弟というふうになつていたらしい。

むかしの人が、開発した学校である木の建てもの。

よくくふうしてある。百年前に学校ができた時の喜びと百年目の喜びと同じぐらいであろう。わたしたちは、ちょうどよかつた。城南小学校百年目の六年生である。

運動会も発表会も中心になり、百年目の上級生がとてもうれしい。

百年祭実行委員組織表

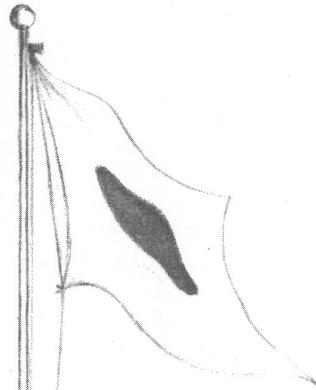
会長	大西 義夫		副会長	畠中 信夫 酒井 隆一		
顧問	河南 貞夫		円谷 孝	小林 隆一	参与	
総務	◎堀井 勇 安原 忠光 大西 通夫		事務局	◎堀井 博 小西 隆夫 酒井 正明 田中 登 酒井 隆一		
区分	事業部			財政部		
	◎辻 幹雄 藤田 孝雄 石田 彦七			◎小林 弥三郎 小前 恵美子 小林 信子		
	出版事業	文化事業	体育事業	記念施設		
	記念誌の出版	校歌額作製 百年展 生花展 盆栽水石展 作品展	記念運動会 体育用具の充実	記念碑国旗 掲揚柱建設 談話室整備 教育機器 整備	町内在住募金 町外在住募金	
同窓会委員	大西 通夫 桧皮 徳雄 円谷 十郎	酒井藤四郎 小前 正雄 西山 美一	藤本 隆平 酒井 政市 堀井 優 室垣 弘二	酒井 隆夫 時本 貞夫 加久田 保 本庄 敏夫	小前 清一 安原孝次郎 酒井 一雄	畠中新三郎 松尾 正 酒井 実 渋谷 恒夫
総代	堀本 義治 酒井 寛	小林 敏夫 大西 侃	○酒井 澈	松尾 実	○杉尾 茂、堀井 義治 各総代	
歴代PTA会長	○水井一雄	○小前久好	前川 忠巳	○坂本 真	酒井条太郎	酒井善市郎
P	畠 善之 岸本ゆり子 辻 宏紹 安原勢津子	酒井 黙 大森三千子 畠中茂登雄 酒井 篤美	渋谷 妙子 小林千恵子 小野 初子 西牧 洋子	小林 富子 松尾 盛男 柳本 僑 本庄 義男	PTA全員	PTA全員
T	岸本 正子 杉尾きよ子 柳本 芳久	酒井 順子 西山八重子	大森 嵩 酒井栄五郎 酒井条太郎	酒井美代子 南 泰美	同窓会委員 全員	同窓会委員 全員
A	木下 孝重 前川 暉子		藤田 孝夫			

○◎
印は責任者

記念事業



能力別グループに分かれ、興味のうちに学力をつける「シンクロファックス」による学習風景



タイムカプセル収納品

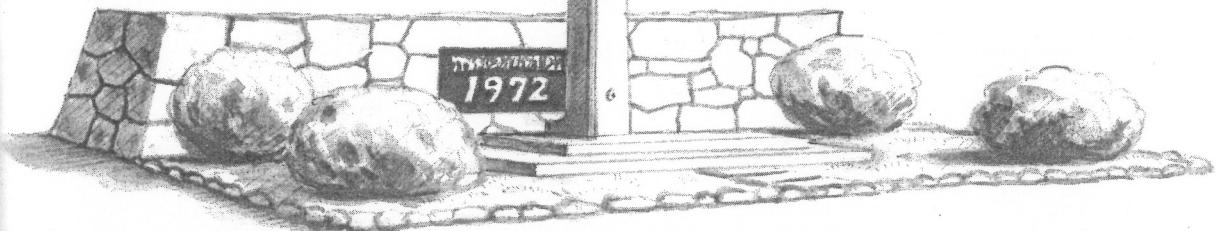
1. 城南小学校創立百年記念誌
2. 同記念式典実況録音テープ
3. 城南小学校教育目標及教育計画
4. 職員組織、児童名簿
5. 現在使用教科書
6. 校区の現況と町勢図
7. 児童作品
8. 記念式当日の新聞
9. 現在の貨幣
10. 記念事業寄付者名簿



「談話室」で生きた学習に目を輝かせる幼児教育学級の若いお母さんたち

記念碑国旗掲揚柱完成予想図

記念碑標石の奥に35cm×50cm×25cmの銅製カプセルを密閉埋設する。



編集後記

記念誌を出版することの是非について論議されたが、記録として残さるべき大事なものとして何とか予算も捻出されるであろうということになり心細いスタートをする。

その後、夏休みとかお盆、或いは早期の稻刈等で原稿や資料の揃う

のが心配されたが皆さんのご協力で何とか記念式典の日迄に出版で

きる目処がつき有難かった。文化

・体育事業の詳細や式典当日のこととを本記念誌に掲載できないのが心残りではあるが、タイムカプセルには収納されることをせめても

の慰めとしている。そのカプセルを埋設する記念碑工事の起工式が十月五日前十時より素晴らしい秋空の下で国里宮司によつて厳粛にとり行なわれた。秋の陽まばゆく注連縄に垂れた白紙のしで、山海の供物、神主さんの衣装を目にやきつけ、爽やかな気持となつて一枚の俳画とした。

神主の声天高く起工式

ふくれゆく夢秋天は限りなし
編集不慣れのため、行き届かなか
つたことへのお詫びとしたい。

(水井記)

